

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2026年09月分)

ご協力ありがとうございました。2026年9月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 140 回答 131 回答率 93.6%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	15社	20社	41社	23社	32社	131社
	11.5%	15.3%	31.3%	17.6%	24.4%	
	(13.6)	(13.6)	(38.6)	(21.2)	(12.9)	
売上高	19社	19社	41社	27社	25社	131社
	14.5%	14.5%	31.3%	20.6%	19.1%	
	(12.9)	(14.4)	(34.8)	(27.3)	(10.6)	
在庫数量	8社	21社	53社	27社	16社	125社
	6.4%	16.8%	42.4%	21.6%	12.8%	
	(7.9)	(15.0)	(46.5)	(22.8)	(7.9)	
販売単価	7社	65社	52社	5社	1社	130社
	5.4%	50.0%	40.0%	3.8%	0.8%	
	(3.0)	(43.9)	(43.2)	(9.1)	(0.8)	
収益状況 (粗利)	17社	17社	59社	21社	16社	130社
	13.1%	13.1%	45.4%	16.2%	12.3%	
	(12.2)	(21.4)	(42.7)	(16.0)	(7.6)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	23社	55社	25社	9社	115社
	2.6%	20.0%	47.8%	21.7%	7.8%	
	(7.8)	(12.9)	(46.6)	(25.0)	(7.8)	
入出庫の トラック台数	4社	18社	59社	37社	10社	128社
	3.1%	14.1%	46.1%	28.9%	7.8%	
	(4.7)	(14.0)	(49.6)	(24.8)	(7.0)	
現在の 景況感	1社	8社	70社	35社	16社	130社
	0.8%	6.2%	53.8%	26.9%	12.3%	
	(0.0)	(8.4)	(46.6)	(31.3)	(13.7)	
3ヶ月後の 景況予測	2社	22社	87社	14社	5社	130社
	1.5%	16.9%	66.9%	10.8%	3.8%	
	(1.6)	(17.8)	(67.4)	(10.9)	(2.3)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2026年9月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 国内需要は低調な状況が続いており、天候不順や自然災害の影響から、需要・供給ともに停滞感がみられる。一方で、国内メーカーによる追加値上げの発表が相次ぎ、市況の値上げ基調はさらに強まっている。今後も価格上昇が見込まれるため、市場動向を注視しながら、お客様へ丁寧な説明と適正価格での販売に努めていく。
- ② 建築分野の需要は低調のまま。ただ、高炉メーカーの追加値上げ発表と、豪雨による生産減によるタイト感が一気に高まり、市況が上がっていくものと思われる。
- ③ 高炉の事故により、申込みがカットされた。今の在庫を大切に販売する。赤字にしないために、メーカー値上げの転嫁は必須となった。
- ④ 半期の期末で売上が増加したが、実需での増加ではないと思う。

中板

- ① 中板は需要面で前向きな話は聞かれず回復の兆しは見られない。市況はメーカー値上げを受け、C C各社の唱えも強まっており、引き続き上昇基調にある。値上げ玉の入荷により、さらにもう一段上昇するものと予想される。

厚板

- ① 建設機械は、引き続き中東情勢の不透明感から、機種によっては減少しているため、全体的には減少傾向である。店売り関連は大口の引き合いもなく、人手不足、鋼材の値上げにより引き合いも少なく、売上も低位安定となっている。
- ② 需要は底堅いが、先々の材料入荷に不安要素あり。
- ③ 高炉メーカーのコスト改善に伴った値上げは、大型物件の受注や災害により拍車がかかっているように思われるが、一般建材の引き合いが増える様子にはない。仕入は間違いなく上がっているが、引き合いがあっても値引きなしでは受注が難しく、価格転嫁が難しい。

一般形鋼・H形鋼

- ① 9月は営業日数が16日であった8月と売上、粗利はほぼ同じであった。建築、土木関連需要が冷え込んでいる様子。年度内回復は無理かと思われる現況である。秋需なる言葉はなくなった。
- ② 長雨の影響により一部土木工事で本来9月出荷のものが遅れている。11月以降の案件が見えているため、疑心暗鬼にならず、明るく商売していく。
- ③ 天候不良続きで在庫が減少、それと匹敵する需要の低迷。実態に見合った在庫調整に取り組む。採算状況は需要低迷を言い訳にしている場合でなく、遅れた価格転嫁に注力。
- ④ 大型物件が推進されているが、資材高騰や施工体制の確保で着工の順延が見て取れる。「2024年問題」の影響が大きい。

異形棒鋼

- ① とにかく需要が少ない。売上不振は予想以上に長く続いており、収益の確保は厳しい。
- ② 動きは8月と同じく良くなかった。内容は、加工があるので普通。10月、11月は毎年通常月より動くが、前年対比では数字は5%ダウン。価格は変わらず。

平鋼

- ① 9月の店売り倉出しは、8月同様、日割り横這いで推移。メーカーからの値上げ玉が入ってきており、追加の値上げを実行したいが、環境が悪く、実行できていない。社内加工は10月も粗々埋まっていて山積みは高い状態が続いている。年内の案件確認をしつつ、値上げの実行時期を見定めていきたい。
- ② これから秋需の時期を迎えるが、目立った動きなく、多くも少なくもないといった状況が数ヶ月続いている、上値が重く、なかなか値上げが浸透せず苦戦している。

軽量形鋼

- ① 9月以降、都内大型案件の納材が見込まれていたものの後ずれしている。年度末に向けては増加傾向は窺える。

鋼管

- ① 春の高炉品値上げは8月中に完遂したことにより、粗利改善。溶協品は荷動きがいまひとつだが、価格転嫁に注力している。

構造用鋼

- ① 需要は自動車関連で一部底堅く推移しているものの、力強さには欠けている。工作機械、産機は堅調、建機も回復傾向にある。在庫数量は若干の凸凹はあるが、横這い基調。価格は春先のメーカー値上げ分（トン当たり1万円以上）を9月からの流通口銭改定で1万5千円の引き上げを実施。10月中には完全に浸透する見通し。

ステンレス

- ① SUS304冷延は昨夏から10万5千円上昇した後、直近2ヶ月で2万5千円下がった。ただ、全ての値上げ分の転嫁は道半ば、かつ、副資材等の値上がりもありコストが増えている。当面の間は引き続き値上げのお願いをする必要がある。

その他

<敷鉄板リース>

- ① 敷鉄板リースに関しては、現状80%台の稼働率を維持している。建築物件が主体だが、秋口から土木物件が増えてくれば、さらに稼働率は上がるとみている。

<スクラップ>

- ① シルバーウィークによる稼働日の減少に加え、スクラップ発生量も低調。国内外ともに需要が弱く、メーカーの購買意欲も乏しいことから、全てが低水準で推移した。10月は海外需要に回復の兆しが出てきたので、低迷する市況回復のきっかけとなることを期待したい。

<金属表面処理>

- ① 9月は紐付き、物件物をベースに計画通りの操業。スポットは盆明けに動いたが、9月に入り荷動きが思わしくなかった。引き合いは増えてきており秋以降に期待する。10月は継続物件及び、紐付きを中心に操業の予定。